

令和6年度 伊賀市議会タウンミーティング実施報告書

テ ー マ	「合併から20年 今日指すべき住民自治について」			
開 催 日 時	令和6年7月29日（月） 19時00分 ～ 21時20分			
参 加 者 数	59人 （35自治協議会）			
出 席 議 員	赤堀久実、市川岳人、上田宗久、釜井敏行、川上善幸、北森徹、北山太加視、西條エリ子、田中覚、近森正利、中谷一彦、西口和成、西田方計、福岡正康、福村教親、増田雄、宮崎栄樹、桃井弘子、百上真奈、森中秀哲、山下典子 以上21名			
	進 行	桃井 弘子	記 録	西田 方計
【主な意見、発表内容など】 （地域防災について） ○消防団、自主防災会、自治協の現状に関して ・消防団員の不足の現状。自治協で議論しはじめた地域。 ・「消防団活性化計画」が実態と合っていないのではないか。 ・地域にある各種施設と協定を結んでいる地域。 ・地域内でも「地すべり」や「浸水」など特性の違う実状があり統一マニュアルではない現状を不安に思う。 ・地域特性にあった地域の「防災計画」を作成、改定している自治協。 ・地域で独自に能登半島へ派遣した自治協。 ・自主防災会の役員の認識向上に対する市の関与の必要性。 ・地域内施設において、民間・県の所有など管轄の違いによる課題。 ○平時・災害時の市や消防署の対応や防災上の電気水道、道路などの整備維持に関して ・「伊賀市地域防災計画」の地域に対する周知が不十分である課題。 ・各地域の特性に合った市の対応がとれているか課題。 ・市の総合防災訓練の周知や横展開が不足している課題。 ・消防団員出動協力企業へは「協力表示証」を発行している。さらに関係機関と災害時の協定を進めてほしい。 ・災害時、道路が通行できなかった現実がある。地域内の往来を妨げることになる道路をふさぐ危険木の調査や撤去の必要性。 ・空き家や空き家周辺の道路にある課題。 ・市との情報共有に課題、ハザードンの課題。 ・指定避難所の有無や管理方法などにある課題。 ・避難所開設、物資供給など、災害有事における市の対応への不安。 ・飲料水の確保のための「井戸」ならびに「水質検査」の必要性。				

(地域包括交付金制度について)

○減額に関して

- ・これまでできてきたことが出来ない現状がある。
- ・20年前と地域の状況は大きく変わった。減額が進んだことで、後継者・担い手が不足する中、高齢者が運営するには厳しい。
- ・減額は自治協の体制づくりにも課題が及ぶ。区長の認識向上、区長の選出などに課題。
- ・市の財政上、減額しなくてもいいようにする方法はいくつもあるのではないかな。

○見直しに関して

- ・各部署のやってほしいことを自治協がわかるように、地域に任す部分は何なのか示してほしい。
- ・市民センターの指定管理については長期的視点が必要のため、「人」の交代などによる運営継続の難しさなどの課題がある。
- ・自治協の監査は「素人監査」になりがちであり、監査がしっかりできる人の存在が必要。また市としても責任を果たすべき。
- ・このままの計算方式(均等割、人口割、面積割など)では課題が多い。例えば、事業を活発にしている地域に対して「活発率」のようなものを考慮するとかはどうか。
- ・人口の多い少ないにかかわらず、やるべきことは同じようにあるので経費は同じように掛かる。
- ・関係する「キラッとかがやけ」「絆づくり」などの事業との関係性を含めた見直しを。
- ・センター職員の職務専念義務はわかるが、自治協の仕事ができないことは問題。
- ・地域あつての伊賀市であり、人口動向はわかっているのだから、自治協支援の市の考えをしっかりと持ってほしい。

以上

伊賀市議会議員 西口 和成 様

令和6年8月6日

上記のとおり、タウンミーティングの概要について報告いたします。

広報広聴委員長 桃井 弘子